

平成29年度 松本深志高校 学校教育目標最終評価

領域	対象	具体的な目標	目標達成のための行動計画・方策など	評価	代表的な意見・評価の理由	
教育活動	全般	生徒の自主性を育てる	自主活動についての議論の場を設定。 生徒自らの手で主体的・自主的な学校生活を送るための支援。	3.9	【自治活動支援】 ・行事の日程などを決定していくにあたり、生徒の意見を可能な限り尊重して進めた。 ・文化祭等、個別の行事については生徒・職員で深く話し合うことができた。今後は、自主活動のあり方そのものについての議論を、時間をとって十分に行っていきたい。 【自主的な学習】 ・予復習課題の配布や、授業中の教材に関する話題提供等により生徒の自主的な学習の意欲喚起を図っている。 ・自学自習を促す教材を用意している。 【教科等の実践】 ・質の高い授業を提供することにより生徒の主体的な学習意欲の喚起に努めている。 ・テストや添削指導を通して自ら課題に取り組み、解決していく過程で学びの意欲を培った。	
	学習指導	広い分野で確かな学力を養う	自学自習ができる向上心・探究心の涵養。 自学自習の学習時間を確保するための研究。 探求的な学びを推進するための校内研修。	3.8	【土曜日活用の研究】 ・平日に土曜授業(3コマ分)を入れることで、生徒が、調査前の学習時間を確保できるようにした。土曜日授業を活用するにあたり、生徒の学力を伸ばす、より効果的な手段を研究した。 【学年集会・HRでの喚起】 ・HRや授業を通して大学での学びや社会とのつながりを伝え、興味や関心を引き出した。 【教科等の実践】 ・個別添削指導など、自主的な学習のサポートは実施しているが、向上心・探究心の弱い生徒も目立つ。 ・21世紀型教育モデル校に指定され研究を続けている。 ・効率的な手段を実践するにあたり、教科としてどのようなことが考えられるかを模索した。 ・添削指導を通じて、個々への学習支援を行った。	
		進路希望の実現を図る	教育課程の改善と次期教育課程の研究。 生徒の資質・能力を高める指導方法を研究する。	3.8	【係の実践】 ・新入試に向けた教員対象の校内研修を実施した。 【学年の実践】 ・第一希望を貫く姿勢が高まった。 ・「学年学習進路の手引き」を作成した。 ・調査及び校外模試の成績の分析を詳細に行い、校内でその情報の共有ができた。 ・学習・進路実態調査を実施して生徒の学習状況を把握し、個別面談に有効に利用した。 ・格差社会に関するレポートや進路を考えるための小論文を課したり、倉吉フォーラムの報告会を実施したりした。 【教科等の実践】 ・年間指導計画(シラバス)を作成し、それに基づき丁寧な学習指導を行った。 ・生徒の進路希望に合わせた補習授業、添削指導、小論文指導、学習合宿を行い、個々に応じた適切な指導ができた。 ・生徒一人一人の進路実現に向けて、補習や個別指導により、基礎力の確立・定着を図った。	
	進路指導	計画的な指導を行う	外部講師による進路講演会、大学説明会、卒業生との懇談、進路通信、学年集会、個別面談、適性検査等を通じた進路意識の啓発。企業や大学と連携したキャリア教育の充実。教員を対象とした進路指導研修会の実施。	4.1	【係の実践】 ・校内外での研修を通して教師側の進路指導力向上を図った。 ・学校視察を行い、進路指導の研究をした。 ・学習実態調査、進路希望調査の結果を校内で共有し、進路指導に役立てた。 ・スタディサポート、模擬試験、適性検査の分析を行い、各学年の個別指導に役立てている。 ・黎明(合格体験記)および学年通信を通して進路意識の高揚を図った。 【キャリア研修・オープンキャンパス】 ・1年夏休み、2年6月にそれぞれキャリア研修を実施し、大学と学問研究、企業と職業について理解を深めた。2年生の研修ではOBの大学生との懇談も行い、進学に対する意欲喚起の契機とした。1年には5月に講演会も実施した。 ・筑波大学・東北大学・信州大学の模擬講義・説明会を本校で開き、多くの生徒に参考となった。 ・進路別ガイダンス、模擬講義、卒業生と語る会、大学生によるワークショップ、医学科講演会などを実施して、進路について考える機会を随時提供している。 【実技・面接指導】 ・信州大学や地元の病院、予備校等と連携して、医学科志望者に対する面接指導を行っている。 【教科等の実践】 ・小論文や個別試験問題の添削指導、模擬面接指導をつづいて個に応じた指導を行っている。 ・授業や補習を通じて学問探究の面白さを伝え、生徒が進路意識を高める手がかりとしている。	
	生徒の自治	自治活動を保障し自治的精神を育成する	学級活動・部活動・生徒会活動における生徒の自主性や、リーダー育成のための機会の保障と指導助言。 文化祭・講演会など生徒会行事に対する支援と指導助言。	3.6	【自治活動の涵養】 ・生徒会活動においては、「自治」の精神に基づき、生徒の自主性を尊重しつつ、広く社会に受け入れられる人間形成の場として、助言、指導、支援をしている。 【幹事会】 ・学年のルーム長から構成される幹事会については、生徒の自主性を十分に尊重しつつ、学年クラスマッチ、その他学年の諸行事が有機的に運営されるよう、折を見て職員から助言を行った。 【HRの実践】 ・生徒大会前に各クラスで議案書を配布し、HR討議を行うことにより、本大会での活発な意見交換に結びついている。	
	生活指導	規律ある生活のリズムをつくる	学習を中心とした生活リズムの確立(部活動・生徒会活動の時間徹底)。 清掃・保健・交通安全指導。	3.3	【生活リズムの管理・交通安全】 ・部活動、生徒会活動時間を守ることで、生徒が家庭学習時間、朝の登校等も含めた時間の自己管理ができるよう考慮した。 ・自転車事故防止と交通マナー向上のため、交通安全委員会がもとより、今年度も全職員による街頭指導を実施した。終始業式の際に、登下校時の安全に対する呼びかけを行った。 【職員間の連携】 ・授業重視の姿勢に徹し、学年団が一致して学習時間の確保・増強のための指導を行う。 【教科などの実践】 ・授業を重視し、授業に集中できる環境づくりに努めた。	
		適切な個人指導及びカウンセリング体制を充実させる	教科担任・HR担任・クラブ顧問の連携。 きめ細やかな生徒相談の実施。 保護者との懇談の実施。	3.8	【カウンセリング】 ・職員が情報を共有し、悩みを持つ生徒への丁寧な対応が心がけられた。 ・学校カウンセラーの支援のもとに、保護者の理解と協力を得て、連携のとれたきめ細やかな指導ができた。 【サポート体制】 ・支援が必要な生徒に対し、サポート委員会を中心にチームとして具体的な支援の計画を考え、必要な支援を行った。 ・定期的な連絡会をもち、全体に報告して情報を共有し、職員全体の共通認識を深めた。	
	学校運営	安心安全な学校	快適な学校環境の整備を図る	危機管理体制の整備。 いじめ・体罰のない学校環境の確保。 健全な職場づくりの推進。 環境対策(ゴミの削減、電気・水道使用量の削減)。	3.9	【いじめ・体罰への対応】 ・学校生活アンケートの見直しを行い、いじめ・体罰についてポイントを絞った。 【職場環境】 ・土曜日授業勤務について「割振り簿」を改訂し、休暇を取り易いようにした。取得率は60%台から70%台へ向上させることができた。 【環境対策・危機管理】 ・感染症拡大防止については早期の対策を心がけ、起点となりそうであった部活と連携して効果的に対処することができた。 ・アラートへの対応を危機管理マニュアルに加えた。
		開かれた学校	保護者との連携を図る	PTA総会の開催、学年・学級PTAの開催。 地区PTAの開催。 保護者面談の実施、適切な家庭訪問の実施。 緊急時メーリング・システムの活用。	4.0	【緊急時メーリングシステム】 ・緊急時メーリングシステムにより生徒・職員への連絡が容易になり、台風・大雪など緊急時への適切な対応ができるようになった。 ・加入率100%を目指しているが、端末の変更に伴う送信不可の状況への対応が課題である。 【学年等の実践】 ・年1回のPTA総会・学年PTAの実施、複数回の学級PTAの実施によりそれぞれの方針・課題を伝え、共有することができた。 ・地区PTAは出席率も高く、非常に有効な交流の場となっている。そのため新たに開催される地区が増えている。 ・適宜、正副担任と保護者・生徒との面談を実施し、学校生活や進路についての相互理解をはかっている。
			開かれた学校をめざす	「評価および公開方法」の改善と充実。 保護者・地域・中学校への情報発信。 中学生体験入学等の実施。 学校評議員会の開催、ホームページの充実。	4.6	【授業公開】 ・今年度は授業公開を1回増やし3回の授業公開を実施した。4月は250名ほどの方が参観をした。10月は卒業生の特別講義も公開することで、通常の授業とあわせて、高評価をいただいた。 ・文化祭の一環としての講演会、合唱コンクール等、各種行事について、保護者の方々にも自由に視聴していただいた。 【中学校などへの発信】 ・9月上旬に体験入学をおこない、保護者・中学校教諭が190名ほど、中学生600名ほどが来校した。保護者・生徒から高評価をいただき、本校の様子をよく理解していただけたと考えている。 ・本年度は、旧11通学区を中心に中学校訪問を精力的におこなった。中学校の先生方と顔を合わせて本校の特長を伝えることで、深志高校の実態をより理解していただけたと感じている。